

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町

1999

11

NO.536

タイムカプセルにたくす夢

～永慶保育園40周年記念事業～



本年度町功労者に三氏決定

平成11年町功労者表彰

9月29日に開かれた町功労者選考委員会で、平成11年町功労者に小松忠正（下通）、梅津嘉一郎（大琴）、登内英夫（長野県伊那市）の三氏、東由利町まちづくり奨励賞に遠藤眞吉氏（新処）がそれぞれ選ばれました。

同表彰式は11月2日に関係者が出席、有鄰館で行われます。



小松忠正氏（76歳）

昭和二十三年、秋田県教員に任用されて以来三十余年教職に携わられ、この間、住吉・老方両小学校の教頭を歴任、昭和五十八年東由利町公民館長、同六十二年東由利町教育委員に選任され、本町の学校教育向上に寄与されました。

また、町広報に「郷土の野草」を執筆連載、本として刊行、自宅を開放してボランティアで書道教室を主宰するなどの活動を通じ生涯学習の充実発展に尽くされました。

学校教育と

生涯学習に功績



梅津嘉一郎氏（73歳）

昭和四十九年、東由利公民館長、同六十年東由利町社会福祉協議会会長など社会教育や福祉団体の要職を通算二十余年歴任されました。

また、本荘市東由利町土地改良区副理事長、町老人クラブ連合会副会長、町文化財保護審議会副会長などの職に就かれ、本町の文化の充実並びに町民福祉の向上に寄与されました。

文化の充実と

町民福祉に功績



登内英夫氏（81歳）

昭和五十九年、アルミ電解コンデンサを主力製品とする先端技術産業の秋田信英株式会社を本町に立地、二百人以上の雇用の場を創出しました。

平成二年、社名を秋田ルビコン株式会社に変更、厳しい経済環境の中、同十年には、第三工場棟を増設するなど、名実ともに町内最大企業として堅実に業績を伸ばし、本町の経済の活性化と産業の振興に寄与されました。

経済の活性化と

産業振興に功績

町長日記

全国道路利用者

会議研修会

十月十三日に徳島市で開催された全国道路利用者会議研修会に参加してきました。

道路利用者会議というのは道路をつくり管理する行政団体とその道路を利用する団体等で構成されています。各県とも郡市段階で会が組織され、その代表者たちによる県の組織があり、

東由利町 まちづくり奨励賞に遠藤氏

民謡普及と質的向上に尽力



町勢の振興発展に寄与された方に対する賞である、東由利町まちづくり奨励賞。これは昨年度から新設された賞です。授賞式は功労者表彰と同日に行われます。

遠藤眞吉氏（70歳）

昭和47年東由利村民謡同好会結成以来、副会長並びに会長を歴任し、今日まで献身的に会員の指導と会務の運営にあたられました。

この間、民謡の普及と質的向上に尽力され、民謡日本一を始め、町内から多くの実力者を輩出する立役者として活躍されています。

さらに全国組織があるという会議であります。私はいま、由利本荘の会長で県の常任理事です。今回そういう立場で全国道路利用者会議の研修会に参加したところでした。

徳島飛行場まで二時間半少々かかりました。三年ほど前に高知県や愛媛県に、山村振興の会で視察に行ったことがありまして、またあの峨嵋たる山々を見て回るのかという思いもありました。

私たちのように出羽丘陵の山々を見慣れている者にとって

は四国の山々には本當にびっくりさせられます。峨嵋たる山並み、それに杉や檜を植えての山村生活は、いかに雪は降らなくともなかなか大変なものであるに違いなく、私たちは優しい出羽丘陵の山々にもっとも感謝をしなければならぬと強く思ったものでした。今回は道路の視察ということではありましたが、そういう感想も思い出しながらの参加でありました。

まず徳島市を会場にした建設省道路局長の道路予算についての講演を皮切りに、バスに乗り主に高速道路を中心にした視察

となりました。

四国はご承知の通り本州と三本の橋で結ばれており、それが地域にどういう影響をもたらすかということが研修テーマのひとつでした。高知市の市長さんの挨拶では「市への車の流入は以前の十倍にもなっている」とのことでした。そのために日本三大ガツカリの一つに数えられるいたあの有名な「はりまや橋」もその下に堰をつくり水を流すように改修したり、その向いには一億円もかけてカラクリ時計を作ったりするなど「交流人口対策に大童である」と笑ってお

られました。私たちはそこが早朝の出発だったため、残念ながらその苦心の跡を見ることができませんでしたが、十倍もの車の流入と聞き、改めて高速道路の威力や車社会を実感させられたことでした。

淡路島から徳島県にかかる大鳴門橋や延長五キロを越えるトンネル、趣向をこらした拠点拠点の道の駅などを視察しながら、平成十九年の秋田国体までの完成を目指している日本海沿岸道路を思ったことでした。



▲喜びの遠藤さん、孫の清美さん、阿部町長

50万人目は東京の遠藤さん

湯楽里入湯者50万人

十月十日、黄桜温泉「湯楽里」の入湯者が五十万人を達成しました。五十万人目の入湯者は東京都東村山市の遠藤イネさん（横渡出身）。孫の田原清美さんから家族と一緒にこの日湯楽里を訪れました。

遠藤さんには町特産のフランク鴨加工品の詰め合わせ、入浴回数券、町内産バラの花束などが贈られました。遠藤さんは「帰省した時などよく利用しているが、五十万人目とは驚きでした」と喜びを話していました。

秋空に広がった皆の歌声

第7回 ひがしゆり 音楽祭

十月十七日、東由利中学校体育館で第七回ひがしゆり音楽祭が行われ、町内外の七コーラスグループを始め、町内保育園児、小中学校の児童、生徒ら関係者八百余名が参加しました。

スグループの歌では小松兄弟が残した数々の楽曲を中心に、日頃の成果を発表しました。どのグループも練習を重ねてきただけに、美しい歌声を聴かせてくれました。

最後の演目では参加者全員による合唱が行われました。

音楽祭を最初から指導、そして温かく見守り続けてきた亡き小島輝夫先生に届けとばかり「四匹のお馬」「東由利町賛歌」を熱唱。皆の歌声はひとつになり、秋空の広がる台山にいつまでも響いていました。

音楽祭プログラム

オープニング

■東由利中学校吹奏楽部
「アヴェントウーラ」他

第一部

■永慶保育園・みどり保育園
「こけっこ大晦日」
「風の花束」
■八塩、大琴、高瀬小学校
「虫の声」
「君をのせて」
■東由利中学校
「お馬、ひよる松」

「こけっこ大晦日」
「風の花束」

■八塩、大琴、高瀬小学校
「虫の声」
「君をのせて」

「君をのせて」

■東由利中学校
「お馬、ひよる松」

「旅立ちの日に」

第二部

■コール・ゆらり（東由利町）

「由利小唄」
「オステイナー」
「トの試み」
「イーデシユ」
「オニムホズ」
「母へ」
「ホラーティ」
「カルメン」

「オステイナー」
「トの試み」
「イーデシユ」
「オニムホズ」
「母へ」
「ホラーティ」
「カルメン」

「オニムホズ」
「母へ」
「ホラーティ」
「カルメン」

「母へ」
「ホラーティ」
「カルメン」

「ホラーティ」
「カルメン」

Ⅱ. 10

■岩谷シルバーコーラス（大内町）
「風」
「花かげ」

「風」
「花かげ」

「花かげ」

■コール・ひまわり（仁賀保町）
「渡り鳥」
「祭り」

「渡り鳥」
「祭り」

■コール・秋桜（矢島町）
「HAIL HOLY QUEEN」
「三日月さん」

「HAIL HOLY QUEEN」
「三日月さん」

「三日月さん」

■やまびこコーラス（西目町）
「おしゃれ椿」
「白樺の葉がしげることを」

「おしゃれ椿」
「白樺の葉がしげることを」

■フラワーコーラス（本荘市）
「ばあやのお里」
「かりよ」

「ばあやのお里」
「かりよ」

「かりよ」

■コール・黄桜（東由利町）
「母」
「はかなし愛の誓い」
「お菓子の汽車」

「母」
「はかなし愛の誓い」
「お菓子の汽車」

「お菓子の汽車」



▲参加者全員による合唱

この音楽祭は町が生んだ音楽家、小松耕輔、三樹三、平五郎、清四兄弟の業績を讃えようと毎年行われている町音楽の祭典です。



▲三小学校児童による合唱



▲コールゆらりの歌には琴による演奏も

「旅立ちの日に」

介護保険情報

第四回

サービスのお値段 利用者負担は報酬単価の一割に

平成十一年八月二十三日、厚生省から介護報酬の主な仮単価が公表されました。
なお、正式な単価や地域区分は、今後国で検討されたあと、平成十二年一月頃には決定される見込みとなっています。
今回は介護保険で受けられる在宅サービスと仮単価の一例を紹介します。

- 一、東由利にある事業所が、介護保険給付対象サービスを提供すると予想されるもの。
- 在宅サービス内容
- ▼町内での予定事業所
- ▼仮単価

- 二千九百九十円
- ▼家事援助／三十分以上一時間未満／千五百三十円、一時間半未満／二千二百二十円、一時間半以上三十分ごと八百三十円

- 訪問介護（ホームヘルパー）
- ▼社会福祉協議会、JA、民間企業

- ▼身体介護／三十分未満／二千円・三十分以上一時間未満／四千二十円、一時間以上一時間半未満／五千八百四十円、一時間半以上三十分ごと



- 通所介護（デイサービス）
- ▼デイサービスセンター（いちょう館）
- ▼要支援／三千九百九十円
- ▼要介護一、二／四千八百二十円
- ▼要介護三、四、五／六千四百三十円
- （四時間以上六時間未満）
- ▼介助浴加算／三百二十円
- ▼特別浴加算／五百二十円
- ▼送迎加算／六百二十円
- ▼食事加算／三百九十円
- 短期入所生活介護
- ▼特別養護老人ホーム（東光苑）
- ▼要支援／八千三百五十円

- ▼要介護一／九千五百八十円
- ▼要介護二／一万五千円
- ▼要介護三／一万五千円
- ▼要介護四／一万九千八百八十円
- ▼要介護五／一万一千四百四十円（以上一日あたり）

居宅介護サービス計画作成料

- ▼在宅介護支援センター（いちょう館）
- ▼要支援／六千五百円
- ▼要介護一、二／七千二百円
- ▼要介護三、四、五／八千四百円（一件、一カ月あたり）
- （十割保険給付）

福祉用具貸与・購入の支給

- ▼民間企業
- ▼未定
- 住宅改修費の支給
- ▼限度額二十万円

二、郡内にある事業所が、介護保険給付対象サービスを提供すると予想されるもの。

訪問入浴

- ▼社会福祉協議会、民間企業
- ▼一万二千五百円

訪問看護

- ▼由利組合総合病院、本荘第一病院等
- ▼医療機関からの場合／時間によって三千四百三十円から八千四百五十円
- ▼訪問看護ステーションからの場合／時間によって四千二百五十円から一万一千九百九十円

十円

訪問リハビリ

- ▼介護度に応じて由利組合総合病院、老人保健施設
- ▼五千五百円（一回につき）

通所リハビリ（デイケア）

- ▼老人保健施設
- ▼介護度に応じて四千八百三十円から六千七百九十円
- ▼通所介護と同等の加算がつかず。
- 短期入所療養介護

- ▼介護度に応じて九千七百七十円から一万二千六十円（一日あたり）

痴呆性老人のグループホーム

- ▼介護度に応じて七千四百九十円から八千三百九十円（一日あたり）

有料老人ホーム等の介護

- ▼ケアハウス
- ▼介護度に応じて二千三百九十円から八千七百七十円（一日あたり）

介護認定審査が開始

十月四日に第一回介護認定審査会が本荘由利広域行政センターにおいて行われました。（十三日には町申請者分の審査が実施）

これは九月六日から受付を開始



▲認定審査会は厳粛に行われた

審査結果は後日、本人に通知されることになります。今後、申請順に審査にかけられますが、在宅の方を優先していく予定です。なお介護サービスの計画作成等は平成十二年一月頃からとされているため結果通知については大切に保管してください。

町民課

福祉医療制度のご案内

福祉医療制度とは

この制度は、乳幼児、母子家庭や父子家庭の児童、重度の心身障害者の方、身体の不自由な高齢者に対して、医療費の自己負担分を助成し、心身の健康の保持と生活の安定に役立てていただくために設けられた制度です。

申請により「福祉医療受給者証」を交付しますので、これを健康保険証と一緒に医療機関（秋田県内のみ）に提示すれば、医療機関では診療の自己負担分を町に請求し、町が医療機関に

支払いますので、自己負担分を支払わないで受診できます。

対象になる方

○乳幼児／四歳未満児（生まれた日～四歳の誕生日の属する月の末日）一日生まれは前月の末日／所得制限有

○重度心身障害（児）者／身体障害者手帳一～三級または療育手帳Aを持っている方／所得制限無（社会保険の本人のみ有）

○高齢身体障害者／六十五歳以上で身体障害者手帳四級～六級を持っている方／所得制限有

○母子家庭の児童、父子家庭の児童と父または母が身体障害手帳の一～二級に相当する疾病状態にある家庭の児童／満十八歳の誕生日以降の最初の三月末日まで

計算を収支計算により算出することとなります。

③各作物ごとの所得金額を計算した後、農業全般に共通する経費については、「共通控除経費」（車両・固定資産の減価償却費・修繕費・雑費等）として控除します。

④右記③の他に実額で控除する経費を設けています。

農業標準は、申告のための単なる目安です。JAの営農口座を集計する「年間取引実績表」などを基に、JA取引以外の収入・経費について補完記帳することにより、容易に収支計算ができますので、ご自分の個別の

（高校を卒業するまで）／所得制限有

対象にならない方

一、東田利町に住所のない方
二、健康保険に加入していない方
三、生活保護の適用を受けている方
四、公費負担医療の適用を受け、医療費の自己負担のない方

手続きに必要なもの

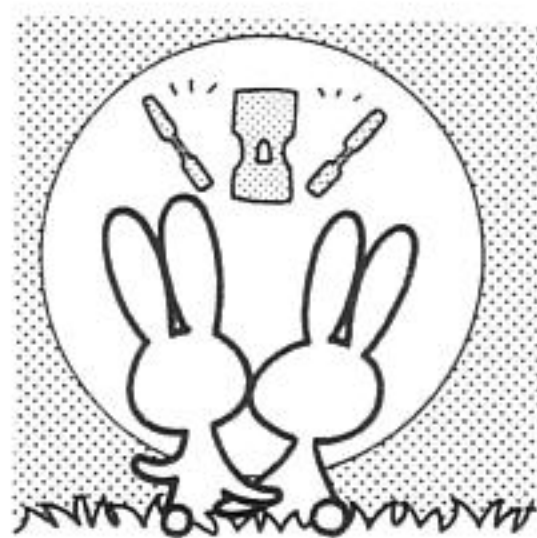
一、健康保険証
二、印鑑
三、身体障害者手帳・療養手帳A・老人医療受給者証（所持者のみ）
四、本人及び扶養義務者の所得証明書（転入された方のみ）

■詳細については町民課（六六九―二二一七）まで

事情を表わすことのできる収支計算をお勧めします。

なお、平成十一年分までは従来通りの標準方式ですのでご注意ください。

詳しくは税務署、町税務課（六六九―二二一七）にお尋ねください。



秋まつり '99

とき..十月三十日（土）

..三十一日（日）

ところ..健康増進センター

朋楽荘 有鄰館

町民プール

町民が日頃取りくんでいる生産や各種文化活動の成果を展示、発表しあうと共に、町民交流の場にしようと毎年行われている秋まつり。従来からのスタイルを継続しながら、時代に即した展示の工夫やアトラクションメニューの追加などにより、心に残る「秋の町民楽しみ会」とすべく、昨年より名称を「秋まつり」として実施しております。主な行事は以下の通り。

今年オープンした町民プールを一般公開します

児童生徒の学習作品展、下水道展等を開催
(30日 9時から31日 16時)

こども祭りが行われます

(31日9時から)

四、五歳児によるステージ発表

(31日 1時から)

熱気球での空中散歩が行われます

台山地区 31日10時。(ただし天候により中止になる場合あり)

キララクターショーが行われます

「燃えろロボコンショー」が健康増進センターで
(31日 10時と15時の二回)

文化講演会が行われます

「故郷を巣立って五十年」
講演..遠藤章氏（農学博士、小倉出身）
(31日 11時から)

「元気の出る食堂」を有鄰館に開設します

秘伝特製スーポのうどん、カレーライスなど

その他にも各施設で秋まつりの行事が行われます。秋のひとときをお楽しみください。

続・畜魂

～つれづれの記

第6話「県共の褒章」

鈴木龍太郎・文

各地域で選抜された牛が集まる県共で優等賞になるのは難しく、自信満々で出場した牛が最終審査で優等賞を逸し切歯抱腕した人（牛）は多い。

平成二年九月五日の指導員日誌に「当町の牛

三頭と一群最終審査に残るも僅差にて優等を逃す。無念なり」とあり東由利はどの部門でも優等をとれなかった残念な年であった。

さりながら私の知る昭和六十年より今年迄の十四年間に東由利町では農林水産省畜産局長賞を畑山克司さん（平成九年）が受賞し、優勝旗は畑山藤作さん（昭和六十三年と平成五年）佐藤貴志さん（平成八年）高沢忠さん（平成十一年）の頭上高く翻り、県知事賞には二十八人の方がその荣誉に輝いている。

そして平成九年に県共最高の農林水産大臣賞が高橋定雄さん（高等登録群三頭）に授与された。その授与式を見るべく私は閉会式寸前に式場に入った。

授賞台の前には定敏さん、勝美さん、秀志さんに手綱をとられた牛たちが並んでいたが、肝心の定雄さんがいない。場内を見回すと牛から少し離れた観覧席のかたわらに手を後ろに組んでたたずんでいた。たのぞばにいき「間もなくはじまるから牛のところへ行ったら・・・」という「ウン、今行く」という返事があつたが動こうとしない。

少し間をおいてもう一度促そうと振り返った私の目に写つたのは、今まさに農林水産大臣賞を受けようとしている愛牛を凝然と見つめるいつもの高橋さんの姿であった。その厳しさに私は声をかけるのを遠慮した。

翌十年に農林水産大臣賞授賞者として農林水産祭に招待された高橋さんと長女のしげ子さんに私も役場の好意で随行させて頂き、明治神宮、農林水産省、皇居で行われた行事に参加させてもらった。

その行事の中のひとつである明治神宮の新嘗祭で思い出に残る情景にあつた。

祭典が終り御社殿内にいた来賓（皆さん）高名の人々であるらしい）が退出のため階段を降りる際、見るからに高

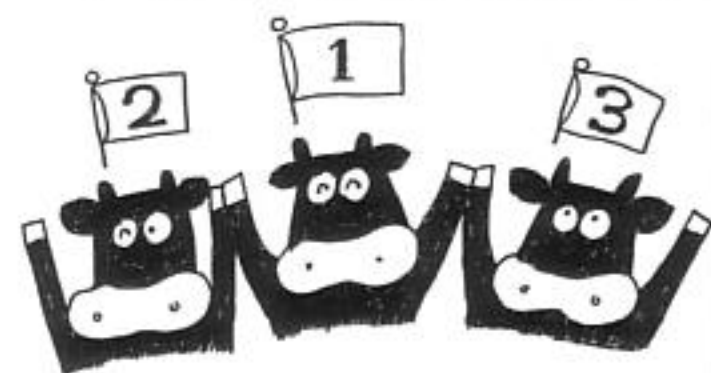
齢の方が足を運ぶのに難儀そうにしていたら近くにいた人がすつと側に寄って肩を貸し一段毎に身体を支え下に降りてくれた。御社殿前庭でそのありさまを見ていた私たちの間にもなんとなくほっとした空気がただよった。

その介添人をよくみるとなんと中川昭一農相（当時）である。中川さんの政治的、行政的手腕は私には分からないがそのときのさり気ない振る舞いに中川さんのお人柄の一端をかいま見たような心温まる一瞬であった。

今は農相の座をおりた中川さんが農政通と言われている政治家である。あのやさしさで農林業に働く人々のたくさんさんの悩み、苦しみを汲みあげて政治に強く反映していただきたいとつくづく思う。

なお県共以外では畑山克司さんが昭和五十九年に岡山県で開催された「第二回全国ジャージー共進会」で見事

にも農林大臣賞を授与され、やはり農林水産祭に招待されてい



林業だより

スギ枝打ちの効用

スギ林の初期保育の下刈、つる切、除伐などは、行わないと成林を期待する事ができません。それに対して、幼齢期の枝打ちはやらなくても成林するが、より価値のある林、より健全な林を育てるために実施する積極的な作業です。枝打ちのもっとも大きな目的は、製材品の表面に節がでないように死節をつくらないようにすることです。

また、枝打ちによって成長を抑えて年齢幅の均一な優れた材を生産できるし、木の太

さも調節されて心持ち柱角材の生産も可能です。なお、枝打ちは林内の光環境を調節するほか、幹腐れの原因となるスギノアカネトラカミキリの幹材穿孔を防ぐことができます。

枝打ちの時期は、幹に傷がつき易い生長期や作業のしにくい厳冬期を除いた十月から十二月と、三月から四月上旬が適期です。枝打ちの器具は、枝の切り口が滑らかに仕上がって切り口の巻き込みを早くする枝打ち専門のナタ、ノコギリを使用します。

（町林業懇話会会長 佐藤恒悦氏）

東由利・成立

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
去勢	29	296kg	441,290	1,416
雌	11	269kg	327,600	1,163
合計	40	288kg	410,025	1,298

●最高金額 去勢 532,350 北国7の8 高栄 糸城
●最高金額 雌 443,100 北国7の8 菊安 福谷1

十月家畜市場

木材共販市況

（平成十一年十月・平均価格）
四五年生から五五年生

径級	単価（石）	備考
直材30cm上	-	
24~28cm	5,100円	
14~22cm	4,900円	
13cm下	2,600円	
曲り材	2,000~2,900円	

10/19の竣工記念市には、高樹齢材、葉枯し材などの出品があり、参加者も45人と多かった。落札率も70%と高かったが、単価は横バイ。材によっては、値下がり傾向。

心に残るふるさと保育を

永慶保育園40周年記念式典



▲当日は関係者80余名が集まった



▲園児たちのゆうぎが披露された

十月五日、永慶保育園で四十周年記念式典が行われました。式典には父母の会、職員、町議会議員など関係者八十余名が出席、四十一年の永き歳月を振り返りました。

同園は昭和三十二年頃、現在のお寺の境内に児童遊具を設置したところから始まりました。その後昭和三十三年五月に町より派出所の建物を払い受け園舎とし、同三十六年、僻地保育園に指定、五十六年には社会福祉法人蔵立会を設立、認可保育園の指定を受け現在に至るものです。

園歌斉唱から始まった式典では、故蔵立会理事の遠藤莊二郎、畑山寅松両氏にそれぞれ感謝状を贈り、保育に限りない情熱を注いだ先人を称えました。その後遠藤兵一理事長が開園当時の状況にふれ「明るく元気の出る町は保育園から」、また伊藤彦舟園長が様々な方々に支えられてきたことに感謝し、「ふるさとを愛する心を持つ大人にと、独自のふるさと保育を行っている」とそれぞれあいさつしました。

来賓祝辞後園児たちによるゆうぎが披露、式典に華を添えました。四十周年記念事業では園児、来賓が丁寧にタイムカプセルを埋めました。このカプセルは園児が成人式を迎える頃開かれます。

永年の福祉功労に表彰

民生委員表彰



▲厚生大臣特別表彰の横山さん（左）畑山さん（右）

十月二十八日、秋田県民会館で開催された秋田県社会福祉大会の席上、永年にわたり地域福祉向上のために活躍したとして、厚生大臣特別表彰が行われ、本町から横山廣一さん（向田・七三歳）、畑山藤作さん（土場沢・七三歳）がそれぞれ表彰されました。お二方ともに二十年以上同委員に在職されました。また、同日、大日向イサさん（大琴・六五歳）も知事表彰を受けました。

いざという時頼れる委員として今後も同委員の活躍が期待されます。

地域に根ざす生涯学習を

郡生涯学習奨励連絡協議会



▲伊藤武三氏講演「人生立ち止まって考える」

十月十九日、有鄰館で本荘由利地区の生涯学習奨励員による連絡協議会が実施、百余名が参加しました。

この会は地域に根ざした豊かな生涯学習のため、奨励員の資質向上と相互交流を深めることを目的に各町が持ち回りで実施しているもの。

今回のテーマは「地域づくりを目指す生涯学習」。伊藤武三講師による講演、三分科会に分かれての研究協議および実践発表が行われました。参加者は地域に根ざす生涯学習について真剣に考えていました。

町のあっち、こっちから



▲ゲームに興じる皆さん

入居者と交流深めるまつり

東光苑秋まつり

入居者と家族、地域との交流を目的に毎年東光苑で開催されている秋まつりが今年も十月十七日に行われました。当日は東光苑の施設が開放され、訪れた皆さんは入居者との交流を深めていました。

風船バレー、缶つみゲーム等のイベント、また、円山和子一行による演芸発表などの出し物に地域の皆さん、家族会の皆さんなどが楽しみながら参加していました。今後とも地域に密着した施設としての役割が期待されます。



▲ヘリコプターの爆音に児童らは興奮ざみ

眼前の大琴パノラマに感動

大琴小ヘリコプター

十月五日、大琴小の全校児童が待ちに待ったヘリコプター体験飛行が行われました。この事業は全国で行われているドリム支援事業の一環として同校が行ったものです。

午前九時頃、爆音と共に空から訪れたヘリコプターに気もそぞろ。整理券を握り締めて搭乗準備を待つ児童たちの顔は上気さみでした。

約十分程度の飛行では、眼前に広がる大琴大パノラマに感動していたようです。この体験は十一月六日大琴ふるさとまつりで報告予定です。



▲一打一打に力がこもったグラウンドゴルフ



▲有鄰館裏などでグラウンドゴルフが実施された

小春日和にスポーツ楽しむ

町民スポーツ祭

十月十日体育の日、第六回東由利町スポーツ祭が台山で行われました。当日は百十余名の老若男女が午前中にグラウンドゴルフ、午後からペタンクを楽しみました。

昨年はあいにくの雨のため、げんき館でペタンク競技のみの大会でしたが、今年は終日絶好の小春日和有鄰館裏、朋楽荘横、野球場内外芝生の特設会場には、グラウンドゴルフ競技に取り組み皆さんの歓声が溢れかえっていました。

結果はそれぞれ次のとおり。

●グラウンド・ゴルフ

優勝／船木 準優勝／蔵新田

第三位／時雨山 第四位／下小路

▼ホールインワン賞(敬称略)

工藤正栄(新町) 佐藤和広(蔵)

横山伸(石高) 横山隆一(石高)

●ペタンク

優勝／横渡 準優勝／時雨山

第三位／石高、大琴



▲ペタンクに熱中

東由利文化クラブ

虫歯
なんてない
も〜ん。

2歳児健診
()内は保護者



安倍 翔くん
家ノ下(正さん)



小松正美ちゃん
田代(正行さん)



嶽崎瑞歩ちゃん
久保(和博さん)



高橋 彩ちゃん
新町(邦夫さん)



遠藤優太くん
新処(勝さん)



工藤瑞貴ちゃん
山崎(清さん)



小松葉月ちゃん
石高(嘉明さん)



小松葉月ちゃん
石高(嘉明さん)



高橋省吾くん
館合新田(重保さん)



佐藤 岬くん
下小屋(悦郎さん)



小野政貴くん
袖山(正志さん)



3歳児健診
()内は保護者



佐藤正広くん
下通(博之さん)



東由利の文芸

(せせらぎ句会)

残る蚊に刺されて叩く神の前
口笛の少年暮秋の灯に急ぐ
わが短軀男に負けず稲掛ける
双つ子にことばふえゆく菊日和
鬼面彫る匠の秋の部厚足袋
木の実降る孫の婚約告ぐ墓地に
新米の旗に誘わるレストラン
読みかけのページをめくる夜長かな
大切りの生鮭下げて嫁帰宅

横 渡 高橋ヒデ子
蔵 阿部 澄子
山 崎 小松 良子
五 海 保 嶽石 レイ
下 小 路 小松 メサ
久 保 高橋 典三
横 小 路 小松 丈介
蔵 新 田 小笠原亮子
湯 出 野 小松 徳蔵

水こだま峡つらぬけり下り築
煤色のランプに秋の翳の暈
炎立つごとく一樹の鶯紅葉
黄菊咲く垣根の石に腰おろす
廃港に尾花飛び交う滑走路
山帰り暮色にそまる雁の棹
石女の家系に非ず秋茄子
紅白の袂紗に包む秋の婚
食足りて稲雀追ふ人もなく
散策のダム湖に木の実落ちる音
うつつと日さしのありてすがれ虫
裏山の一面の葛星月夜
新米の光を計る斗枰かな

家ノ下 小松 正昭
横 小 路 宮野源二郎
中 通 小松順之助
蔵 新 田 小笠原トミ
湯 出 野 佐藤 正義
小 倉 遠藤トミ子
秋 田 市 嵯峨 義之
蔵 新 田 小野 貞子
船 木 大庭喜右衛門
上 里 小野石路子
舟 打 場 高橋民治郎
時 雨 山 吉川 葉子
高 戸 屋 小松 敏雄

アイドルをさがせ!



高橋啓汰くん(十二ノ前)
(2歳)
お父さん:京一さん
お母さん:伊佐子さん
お話し:伊佐子さん

名前の由来は「由来は特にないのですが、本などを読んで考えました」
「どんなお子さんですか」
「ちょうど活発な時期で、何にでも興味を持っています。保育園に入っていないので一人遊びが多いです。二人のお姉さん(尚子さん、沙季さん)と遊ぶのが楽しみです」
「チャームポイントは」
「ニコッと笑った時の笑顔と前歯です」
「好きなもの、嫌いなものは」
「好きなものはテレビゲーム。食べ物には野菜、特にたまねぎとニンジンが好物。魚が苦手なようです」
「最近のエピソードがありましたら」
「花に興味があるようです」
「将来の希望は」
「やさしい人になってくれたら。父親は大工さんといっています」



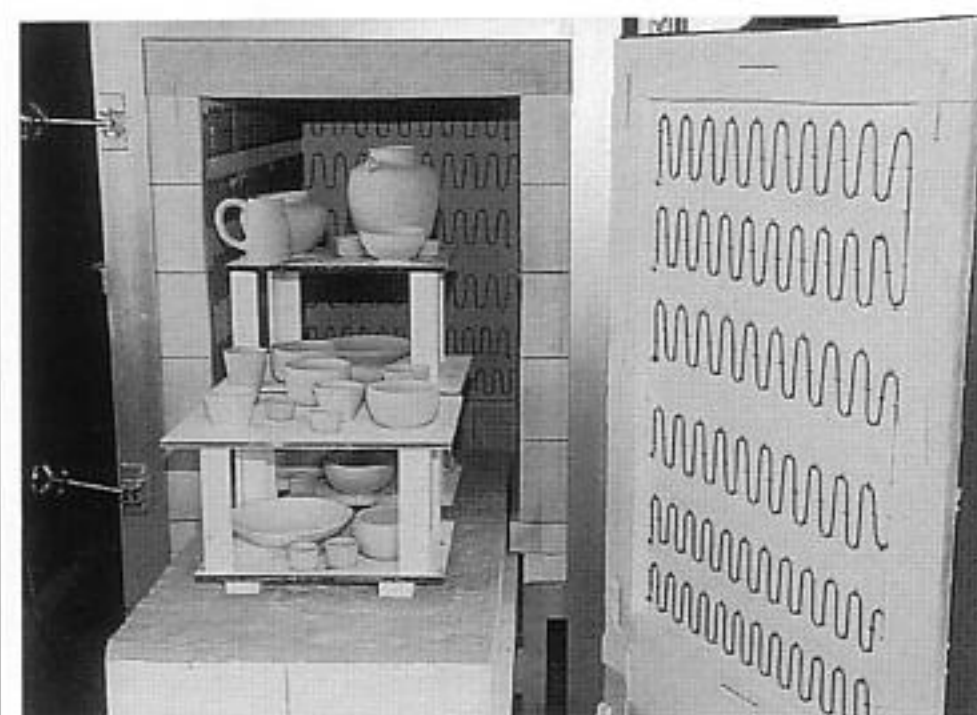
▲完成した陶芸作業所

湯楽里裏に陶芸窯が設置

このほど、湯楽里裏に陶芸作業所と陶芸窯が設置されました。これは本町が「全県野焼きを楽しむつどい」の会場として定着し、陶芸の町として大きく期待されつつあることを受けて町が設置したものです。

この日、窯の試運転を兼ねて初めて陶芸作品の素焼きが行われました。全自動窯とはいえ、焼き上がり具合が心配されましたが、無事作品は完成しました。

今後の活用が期待されます。



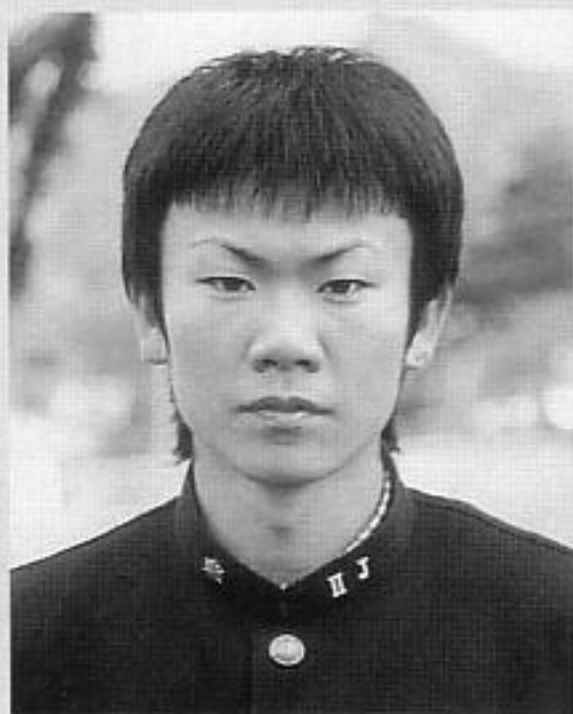
▲初窯出しでは素焼き作品が焼き上がった

ハイスクールライフ

修学旅行

本荘高校下郷分校二年

小野 信宏さん



九月二十八日から十月二日まで、僕たちは神戸、大阪、奈良、京都といったコースで修学旅行にいった。

最初に訪れた神戸では、震災学習として実際に被害に遭われた方の話を伺った。震災から大分時が

経ち、僕たちの記憶も風化しつつあるが、改めて地震のすごさ、残酷さ、命の尊さやボランティアによる救援の大切さを感じた。

続いて奈良、京都ではいくつかの有名な寺を回った。どの寺も予想以上に大きく、驚きの連続だった。また日本の伝統文化の一端を直に見ることもできて本当に良かった。

そして、京都での自由行動。京都の街を一日中歩き回り、いろいろと見て回った。印象に残った所を一つあげるとすれば京都駅だ。あの広さにはびっくりした。僕たちは何度も迷った。

最後に、やはり往復十八時間の列車の旅は辛かった。唯一の楽しみは駅弁を食べることぐらい。けれども行く先々で多くのことを学べたし、たくさんさんの思い出も作ることができて、本当に充実した旅だったと思う。

ふるさと むかしむかし

二九

狐の落とした花嫁ぼっち

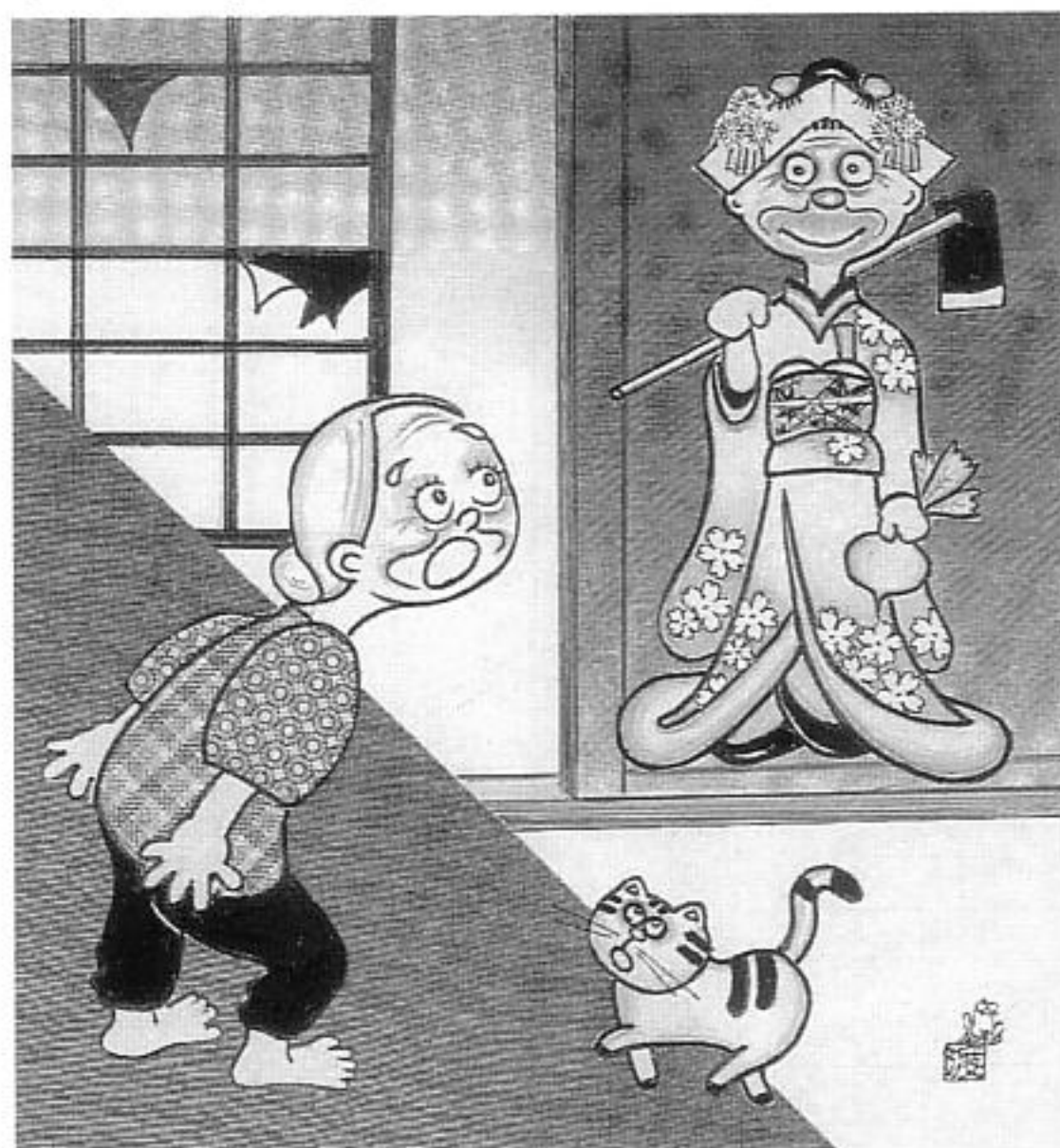
むかしむかし、小倉の奥の川台という沢の途中には大きな島があったところから大島とよばれていました。大島には、爺さまと婆さま夫婦が住んでいました。

ときおり、かき集めていた松やにで、松やに灯しを作り、それを売ったりして細々ながらも楽しくくらしていました。

ある日の夕方、爺さまは松やにのたくさんとれる川台の大きな松の木の下にきたら、見えないぼっち（帽子）が落ちていました。「ありや、これは狐のぼっちでねえか、はあ、俺が来たのであわてて落としていったな」。爺さ

まは、一人ごとを言いながら狐のぼっちをひろって、ひよいとかぶると日暮れの山道を戻り、「婆さま、いま帰ったぞ」。爺さまが家に入っていると、婆さまはびっくりぎょうてんしたのでした。「お、お前さん、どうしたんじや。そんな格好をして……。なんとまあ爺さまは、角かくしをつけた花嫁すがたになっちゃいました。……こりやきつと、この狐のぼっちのせいなんだ」。なるほどぼっちをとると、元のすがたになるのでした。

これはいいものをひろったと、爺さまは大よろこびでいると、その晩、狐がやってきて「爺さまや、あのぼっちなあ、おらの嫁っこのぼっちでな、あれがなければ花嫁になれんのじや、どうか返してくれや」。爺さまは「お前に島を荒されたり、いたずらされたりで、今度という今度は返さねえ」。狐は「爺さま、もう島を荒したり、いたずらもしないからどうか返してください。そのかわり珍しいものを持ってくるから」。と泣き面であのむの



で、爺さまはとうとう承知したのでした。

つぎの晩、狐がやってきて「爺さまや、あのぼっちのかわり、ほら、灯りの消えない棒をもってきた……。狐のもってきたのは一本の棒きれでした。

爺さまは、その棒をふると、灯りがともって「こりやいいや、これさえあればもうどんな暗い夜でも平気……。そしてぼっちを返してもらった狐は、川台の森をめざしてとぶように走っていくのでした。

爺さまは、いいものにとりかえたともう一度棒をふってみました。ところが、今度は少しも灯りがともらない……。ただの棒きれです。まんまといっぱい喰わされた爺さまなのでした。

【小倉・遠藤猪一郎氏（故人）の語りより再話 文と絵 石渡力造氏】

11月▶データ東由利

〈9/1〜/31〉

住民基本台帳人口 () は前月比

- 男.....2,517人 (+1)
- 女.....2,658人 (+4)
- 計.....5,175人 (+5)
- 世帯数.....1,389戸 (+1)

() は1月からの累計

- ・出生2人(23)・死亡2人(51)
- ・転入6人(62)・転出2人(93)

- 火災出動.....0件(6)
- 救急出動.....12件(102)
- 交通事故.....0件(5)
 - ・死亡.....0人(1)
 - ・傷者.....0人(5)
- 飲酒運転.....0人(1)

11月の行事予定

- 2 町功労者表彰式 (有鄰館)
- 3 文化の日
- 7 みどり保育園40周年記念式典
- 14 農業者大会 (有鄰館)
- 17~23 町民海外研修
- 23 勤労感謝の日

11月15日は サービス業基本調査の日

この調査はわが国のサービス業に関する基礎資料を得るための大切な調査ですので、ご協力をお願いします。



「人生は短く、学ぶことは無限にある」と気づいたのが二十歳前。それからの十年は学習の十年、蓄えの十年でした。それは生き方の指針であり、体得した本人しか理解しえない技術のようなものだったと思います。

今、その時期を経て成熟の十年に入っているように感じます。同時に蓄えたものを自分自身のものから、外に向けて形づける時期。そして次の十年には・・・。とにかく後悔しない人生をおくりたいと思う今日この頃です。(さ)

東由利

郷土の野草

NO.177

ヌスビトハギ

(マメ科)

文・写真 小松忠正氏

秋、山の中を歩いて来ると、この草の実が衣服にいつぱいついてきます。

この草は、日本全土、朝鮮、中国の林下に生える多年草で、草丈は一メートル前後になります。葉は三出複葉で互生し、小葉は卵形で幅四センチ、長さは十センチ程になります。九月頃、葉腋から花序を出して可憐な淡紅色の蝶形花をつけます。豆果は二



節があつて、節は半月形です。

和名は盗人萩で、盗人が足音をたてないように、足の外側だけに歩く足跡に似ているためにつけられたものといわれています。

戸籍の窓口

(9月21日〜10月20日届出)

●お誕生おめでとう

阿部 史奈さん (樹悦蔵)

阿部 穂積さん (淳新町)

浦 ひなこさん (雅弘田代)

●ご結婚おめでとう

高橋 宏幸さん (久保)

小野 ゆかりさん (高屋保)

梅津 正明さん (大琴山)

池部 留美さん (袖山)

●ごめい福をお祈りいたします

遠藤 ミエさん (86) トノ子・伯母・宇戸坂

遠藤 多喜夫さん (53) てつ子・夫・新処

子どもは地域で守る



▲子ども110番の家が町内各所に設置された

全国的に少年による凶悪犯罪、また児童生徒が被害にあう事件が増加傾向にあります。本町でも昨秋頃と本年春先に小学生に対する不審者(車)による声かけ事犯が発生しています。このたび、犯罪の被害を未然に防止し、子どもたちの安全確保を目的に、小、中学校の通学路線上に三十一箇所の「子ども110番の家」が設置されました。この家は危険を感じた子どもたちがいざという時に避難できる場所です。110番の家には表札が掲げられています。地域の大人たちも、子どもは地域で守るという姿勢で見守ってほしいものです。

子ども110番の家設置

社会福祉協議会に小野治一郎さん(下通)、阿部富八さん(中通)から芳志が届けられました。また、広報送付謝礼として嶽石春雄さん(相模原市在住)、大庭ユキさん(本荘市在住)、石塚建蔵さん(秋田市在住)から金一封が届けられました。公民館に小野浩一さん(春日部市在住)から書籍が寄贈されました。ありがとうございます。



高の斉藤真一さん宅の裏にミウガの花が咲きました。数え切れないほどたくさんの赤い花が咲いたのは初めてのこと。(写真は一部)

たくさんミウガの花が咲いた